

「高千穂郷」通信



【祝】ユネスコエコパークに、祖母・傾・大崩山系が登録されました！

「ユネスコエコパーク」とは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的に、1976年にユネスコが開始した事業です。登録地域では、豊かな生態系や生物多様性を保全することで、世界基準の認定による**ブランド価値の向上**や、**環境教育**、**研究の拠点**としての活用が期待されています。



6月14日(水)に、ユネスコ本部が置かれているパリにて、ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会が開かれ、宮崎県と大分県にまたがる「祖母・傾・大崩山系」がユネスコエコパークに登録されることが決定しました。県内では綾町に次いで2件目の登録です。

「祖母・傾・大崩山系」は、急峻な岩峰や美しい渓谷など独特の景観美と原生的な自然を併せ持ち、希少動植物の宝庫としても知られています。



決定直後の記念写真



生息するニホンカモシカ



祖母山の山開き



アケボノツツジ

6月17日(土)には、エコパーク登録を記念した祝賀会が延岡市で開催され、大分と宮崎の両県知事や関係市町の首長のほか、登録活動に携わった協議会関係者など約130人が参加し、今回の登録を祝いました。

今回、ユネスコエコパークに登録されたことにより、世界農業遺産に続いて、2つの世界ブランドが西臼杵地域で登録されたこととなります。今後は、自然地域の保護だけでなく、自然と人間社会の共生という点においても、世界的に注目される地域となります。

「MRT環境賞」大賞を受賞

優れた環境活動を実践している個人・団体を表彰する「MRT環境賞」の大賞を、「高千穂森の会」会長の興梶幸男さんが受賞されました。

今回の受賞は、高千穂町の鳥屋岳の多様な生態系を維持しようと枝打ちや間伐に取り組んでこられたことや、地元の小学生やボーイスカウトと連携した植樹活動により、森林の大切さを次の世代に伝える活動に取組などが評価されました。

これまで二人三脚で支えられてこられた奥様や、森の会のイベント開催などで共に尽力をされている飯干修一さんも押方の森を管理していく上で欠かせない存在となっています。

「押方の森」は、スギやヒノキ等の針葉樹林を主とする人工林ですが、間伐や下草刈り等により良く手入れされ、適度な日差しが林内に射すことで、クマガイソウ、エビネランなど、県レッドデータブック掲載種が10種類も生息しており、次に開花するキレンゲショウマの公開が、7月22日(土)から26日(水)にかけて予定されていますので、ぜひ訪ねてみてはいかがでしょうか。



△興梶幸男さんと妻の任香さん



△興梶さんを囲んでの全体写真

宮崎県乾しいたけの品評会で農林水産大臣賞受賞！

6月8日(木)に、都城市において、62回目となる宮崎県乾しいたけ品評会が開催されました。

西臼杵3町からは87点が出品され、^{こうこ}「香菇」の部で五ヶ瀬町の甲斐和幸さんが、^{こうこ} 昨年の林野庁長官賞に続いて農林水産大臣賞を受賞されました。

また、前日にはご夫婦と関係者で、河野知事を表敬され、知事に乾しいたけのバター焼きを試食してもらうなど、PRにもご尽力いただきました。

甲斐さんの優れた技術と日々の努力が高く評価された大会になったとともに、今後の乾しいたけ生産に弾みの付く大会となりました。



◁県知事表敬



◁甲斐和幸氏



中川登地区(高千穂町)で通常総会・田んぼアート開催

4月28日(金)に、農事組合法人高千穂かわのぼりの第4回通常総会が開催されました。法人生産の大豆で作ったみそやきなこが好評でしたので、今年度は大豆の作付面積を増やし、みそ等の加工に力を入れる予定です。

また、法人の活動の中には例年行われるアート米の田植えがあります。アート米とは実った稲穂の色で田に絵を描くものです。今年は地域住民を中心に、約70名が田植えをしました。全国和牛能力共進会の3連覇を祈願したテーマで、トロッコ列車を背景にしたデザインが採用されました。地元の学生、子ども連れの家族などが泥んこの姿で手植えしました。

10月頃になると稲穂が実り、アート米の絵柄が浮かび上がります。是非、中川登にお越しください。



△手植えの様子



△今年のデザイン



△田植え終了後の集合写真

遠い汽笛・溪谷の駅舎(えき)

～ 旧高千穂鉄道を巡るシリーズ ～ 【第3回目】

今回ご紹介するのは、「影待駅～日之影温泉駅～吾味駅」のエリアです。**影待駅**といえば、現在は山の中にある秘境の駅として、一部の鉄道マニアから魅力のある駅舎として知られています。

昨年末にリニューアルした**日之影温泉駅**は、平日・休日を問わず、五ヶ瀬川を眺めながら楽しめる温泉を目的に入浴客が多く訪れるスポット。**吾味駅**の周辺には九州初の森林セラピーロードが通っており、歩くだけで心と体がリフレッシュされ、深呼吸をしたくなるような場所です！



①現在の影待駅の案内。徒歩で20分。



②看板の指示する方向に進む。目の前には我々の行く手を阻む巨大な落石が。(怖い)



③「影待駅」のホーム(があったであろう場所)。駅の名残を確認できるような看板などは見当たりませんでした。



④トンネル内に置かれたノート



富山県から訪れた人は「このノートを発見したときは感動したよ!」との記録が。さすが、知る人ぞ知る秘境の**影待駅**!



影待駅へのアクセス方法は、(A)国道218号脇から下るルートと、(B)県道237号線から登るルートの2つ。現地調査した限りでは、県道ルートからのアクセスは不可能になっています。(A)を採用し、国道の脇から農業地帯をこえて、谷底へ降りていきます。目印は「影待駅」の方角を示す手製の看板のみ(写真①)。途中、通行者の行く手を遮る巨大な落石(写真②)や朽ちる寸前の階段を進んでいきます。

必死に進むこと約20分、影待駅のホームだったのであろう、開けた場所へ到着です(写真③)。既に待合所や駅の看板は撤去されています。

唯一残されていたのはホームの直前にあるトンネルの中に無造作に置かれた「**影待駅(跡)ノート**」(写真④)。この地を訪れた秘境駅マニアたちがその足跡をこのノートに記しています!



△**日之影温泉駅**。昨年末にリニューアルオープンして、ますます賑わいを見せています。五ヶ瀬川を眺めながら入る露天風呂はまた格別。レストランや休憩所も充実していて、日之影町に観光に来た際は是非とも訪れておきたいスポット。また、隣接する「列車の宿」では、実際のTR車両を宿泊施設として再利用しています。鉄道好きな人にはたまらない施設です。



▷橋梁跡地から五ヶ瀬川を展望すれば、気分爽快になること間違いなしです。



◁**吾味駅**。メルヘンチックなたたずまいが印象的なお洒落な駅舎です。

五ヶ瀬川に架かっていた橋梁のレールは撤去されており、現在は遊歩道として多くのセラピー参加者が歩いて通る道になっています。

日之影町有機農業研究会総会が行われました

5月22日（月）に、日之影町有機農業研究会総会が開催されました。

日之影町の有機農業研究会は一昨年の12月に発足し、現在は10名の会員で積極的に県外視察などに出向くなどして知見を増やし、日頃の農作業に生かしています。

会員はそれぞれ、米や茶、麦、雑穀、夏秋野菜などの生育に取り組んでいます。中でも水田の除草は難しく、結局イネが雑草に負けてしまい、一般的に除草剤に頼ってしまうケースが多いのが現状です。

写真のように、ポピーなどの複数の花で田植えの直前まで水田を覆うことで、雑草の種子を増やさず、除草剤無しの栽培を可能にしているそうです。



◁水田を覆うポピー



◁総会の様子

身近な水辺のモニター委嘱式が行われました

6月14日（水）に、多自然川づくりを推進するため、河川工事が完了した箇所について、地域の方々のご意見を今後の川づくりに反映させることを目的に「身近な水辺のモニター（以下、モニター）の委嘱式を行いました。

今年度の活動についても、平成20年度より継続してモニターにご協力いただいている「山附溪谷ホテルの里」の皆さんに委託しました。委嘱式終了後は、山附川へ移動し、水質検査や生態系の調査等が行われました。

モニターは、今回の活動を含め年4回実施予定です。今年度も「山附溪谷ホテルの里」の皆さんと協力しながら楽しく調査を行い、より良い川づくりをしたいと思います。



◁委嘱式の様子



◁モニター活動

神代川について高千穂小の児童と一緒に勉強しました！

5月23日（火）と6月8日（木）に、高千穂小学校の4年生を対象に、神代川をテーマに授業を行いました。この授業は先生方の「児童たちに高千穂のことをもっと知って欲しい」という思いと、「神代川を子ども達が将来誇れるような川にしたい」という支庁職員の思いが結びついたことにより、定期的に授業を行うものです。

第1回目の授業は、神代川に関する座学の後、現場見学を行いました。第2回目は、昔の神代川の姿を学ぶために荒立神社の興柵宮司の講話を聞かせてもらい、高千穂小の児童と一緒に昔のことを学びました。

この授業を通じて、子ども達の高千穂町への愛情と神代川に対する興味や関心が向上することを期待します。



◁現場見学



◁興柵宮司の講話

◎お問い合わせ先

宮崎県 西臼杵支庁 総務課 TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760

西臼杵支庁

検索



Facebookページ西臼杵支庁「ウキウキ！好き好き！ニシウスキ！」更新中！

